

〈調査報告〉

小川シゲノから上田トシへの伝承

大 谷 洋 一

- 目次
1. 解 題
 2. 表記について
 3. 小川シゲノの語り
 - ・ 行者にんにくの女神と結婚した男－1
 - ・ 赤ちゃんを置き忘れて逃げた女－1
 4. 上田トシの語り
 - ・ 行者にんにくの女神と結婚した男－2
 - ・ 赤ちゃんを置き忘れて逃げた女－2
 5. 注

1. 解 題

本稿は、平取町に在住する二人の語り手の間で伝承されたウエベケレと呼ばれる口承文芸の報告である。「行者にんにくの女神と結婚した男」と「赤ちゃんを置き忘れて逃げた女」という仮の標題⁽¹⁾を付けた2話を、伝承した側とされた側の合計4編のテキストとして報告したい。

小川シゲノ氏は、1921（大正10）年9月6日に北海道沙流郡平取町貫気別で生まれる。昭和時代の半ばを隣町の穂別町仁和で生活されている。小川氏が記憶している口頭伝承は両地域において話されていたものであるが、長期間にわたってアイヌ語を用いない生活が続いたため、現在では散文物語をアイヌ語で語り通すのは困難であるという。しかし、アイヌ語のみの語りを要求しない場合には様々な口承文芸のストーリーを語る事ができる。

上田トシ氏は、1912年10月3日に同町ペナコリで生まれる。口承文芸の主な伝承先は、姉の故・木村キミ氏から直接聞いたものが多いのだが、現在は他の語り手が語った口承文芸を積極的に吸収してレパートリーを増やし続けている。そのようなアイヌ民俗文化保護の業績が認められて、平成8年度北海道文化財保護功労賞を受賞されている。

本報告では、小川氏が語った日本語を多く含むウエベケレを上田氏がアイヌ語の語りに再構築しており、伝承における変容の過程などを分析するための資料となり得るだろう。採録資料は、北海道立アイヌ民族文化研究センターに保管してある。それぞれの物語ごとに伝承と採録の経緯

を以下に簡単に記す。

翻訳にあたっては、門別町に在住する松島トミ氏と平取町に在住する鍋沢キリ氏から数多くの御教示をいただいたことを記して感謝申し上げる次第である。

◇「行者にんにくの女神と結婚した男」伝承・採録の経緯

- ① 1960年代、平取町字貫気別に住んでいた斉藤ウメ氏 (1898～1980) が小川氏にアイヌ語で語る。貫気別市街での買い物からの帰路、二人だけで歩きながら伝承された。
- ② 1980年代後半、小川氏が上田氏に対して日本語とアイヌ語を交えて語る。伝承の場所は札幌市内のホテルの一室である。
- ③ 1996年5月11日、上田トンが報告者を含む3名の聞き手に対してアイヌ語で語る。千歳市在住の中本ムツ子氏自宅において報告者が採録する。本報告の「行者にんにくの女神と結婚した男-2」のテキストである。
- ④ 1996年7月26日、小川氏の自宅において小川氏から報告者が採録する。本報告の「行者にんにくの女神と結婚した男-1」のテキストである。
- ⑤ 1996年8月14日、札幌市在住の報告者が妻とその姉にアイヌ語と日本語を交えて語る。語りの場所は報告者の自宅である。

◇「赤ちゃんを置き忘れて逃げた女」伝承・採録の経緯

- ① 1950年代前後、穂別町字仁和において同地出身の女性 (1800年代後半～1965頃) が小川氏に語る。
- ② 1990年代前半、小川氏の自宅において小川氏が上田氏に語る。
- ③ 1996年6月30日、上田氏の自宅において上田氏から報告者が採録する。「赤ちゃんを置き忘れて逃げた女-2」のテキストである。
- ④ 1996年7月26日、小川氏から氏の自宅において報告者が採録する。「赤ちゃんを置き忘れて逃げた女-1」のテキストである。
- ⑤ 1996年8月14日、札幌市在住の報告者が妻とその姉にアイヌ語と日本語を交えて語る。語りの場所は報告者の自宅である。

2. 表記について

- (1) アイヌ語表記は、原則としてカタカナ表記の後にローマ字で表記することを原則とする。
例：ピッカ ブクサ pirka pukusa「良い行者にんにく」
- (2) 語り言葉にアイヌ語が多い箇所は上段にカタカナ表記と下段にローマ字表記の二段に配置する。ただし、日本語による語りが続く箇所は一行に配置して、初出のアイヌ語以外はローマ字表記をしない。

- (3) アイヌ語のカタカナ表記は、実際に聞こえる音を書き移すため「わたり」の音や音韻交替による音や言い差しなどを表記する。
- (4) アイヌ語のローマ字表記は、「わたり」の音や言い差しなどを表記しない。また、音韻交替により変化していない形の単語を表記する。

例：ポインサム サンマ pon sisam san wa 「小さい和人が下りて」

- (5) 分かち書きは、アイヌ語カタカナ表記では音の切れ目に重点を置き、アイヌ語ローマ字表記では一語とみなした単語ごとに分けて表記する。
- (6) 言い差しなどで音が詰まった場合に「、」を打って示す。
- (7) () 内は説明は編者の補足説明である。
- (8) 本文中に「??」がついている箇所は聞き取りや日本語訳が適切かどうか不明な箇所である。

3. 小川シゲノの語り（あらすじ省略）

「人間の女に化けた行者にんにくの女神ー1」（7分42秒）

< 本 文 >

アホクフアン アマチアニネ ⁽²⁾	
a=hokuhu an a=maci an hine	私の夫がいる、妻がいて
オカアンベネ ヒケ	
oka=an pe ne hike	暮らしていたところ
エキムネ チャワ、、、	
ekinne cawa,,,	山へ猟に行く、頼り、、
チャナアン オッカイボネして ⁽³⁾	
canan okkaypo ne SITE	頼りない男でして
エキムネ すればイセベ、、イセポたり	
ekimne SUREBA isepe,, isepo TARI	狩猟に行つてウサギとか
チロンヌツたり コロワエツ	
cironnup TARI kor wa ek	キツネとか持って来た
すれば アマチヒ それこそ	
ピッカ ブクサアニ ⁽⁴⁾	
pirka pukusa ani	良い行者にんにくで
マタ mata でも なつでもふゆでも	冬でも夏でも一年中
オハ、、 ohaw おつゆつくって	おつゆを作つて
たべていたんだけど	食べて暮らしていたけれども
あんまり そうやっているんだけど	しばらくそうしていたけれども

へんでどうもなんない
 なつこそは なんぼでも きとびろでて
 たべられるけども あの
 ふゆはそうゆうこと ないのに
 どうやって そうやって アマチヒ
 ソレクス ニナ sorekusu nina したり
 スケして いろいろにしているのに
 やまいって かえってくるっていえば
 それこそ ピッカ プクサルル pukusa rur
 こさえて チェッ cep だか
 ウサギのにくだり チロンヌッだり
 なんだりして ちゃんと
 サカンケ sakanke して⁽⁵⁾
 おいてあるもんだから
 それで おつゆ たいてもらって
 おいしいおつゆ たべているんだけども
 どっからきて そうゆうふう
 しているもんだか わからなくて
 いたんだけども…
 チャナンオッカイポったら
 かいな いちゅうことだんだべや
 そして やまさいって しかだり
 たまに しかころしてきたり えー
 すればじぶんのおっか よろこんで
 ちゃんとして サカンケして
 ふゆくうものは ふゆくうように
 したく している
 なつになっても ふゆでも
 そのプクサ アシップクサ
 SONO pukusa asir pukusa
 ピッカ プクサアニ ルルカラワ
 pirka pukusa ani rur kar wa
 くって いるんだけど
 こどももできない
 なんも できないんだけど、

どうも不思議で気になる
 夏ならばいくらでも行者にんにくが生えて
 食べられるものだが
 冬はそういうことは出来ないはずなのに
 どのようにして私の妻は
 それこそ、薪とりをしたり
 料理やいろいろな仕事をしていても
 (私が) 山から帰って来たなら
 とても新鮮な行者にんにくのおつゆを
 作って、魚とか
 ウサギの肉とかキツネの肉などを
 何かしてして、きちんと
 ゆで干しにして
 保存してあるから
 それでおつゆを作ってもらって
 美味しいおつゆを食べていたが
 どこから採ってきて、このように
 しているのかわからずに
 いたのだけれども
 チャナンオッカイポというのは
 頼りないということなのだが
 山へ行って鹿とか
 たまには鹿を殺して持ってくると
 そうすれば自分の妻は喜んで
 きちんと干して
 冬の食料は冬に食べるように
 準備している
 夏も冬も
 その新鮮な行者にんにく
 美味しい行者にんにくでおつゆを作って
 食べて暮らしていたが
 子供もできない
 妊娠の兆しもなかったのだが

そうやっていっしょに なんねい、
 なんねんかと いっしょにいるあいだに
 えー、またエキムネしにいて
 やまいったんだけど イセボ
 クリヒ kurihi もない チロンヌッ
 う、あしあとも なんもないから
 こんど かえってきたけまた
 アマチヒ、スケエトコイキ
 a=macihi sukeetokoyki
 しゅるのに いっしょけんべ⁽⁶⁾
 やっているとこさ じぶん
 かえってきたんだけども すぐ
 きょうは なんもないで イセボも
 なんにも みない
 クリヒ kurihi もない
 あしあともないから かえってきたって
 ゆったけ、えー、まえにとったやつ
 あるもの また あしたでもいけば
 あるべやって そうゆうふうに
 ゆったけ こんど スケエトコイキ
 しているやつ ちゃんとして
 もう くうようにこさえて
 アエしたりして こんど
 ホッケアン hotke=an して そのあさ
 またはやく ホプニ hopuni して
 スケエトコイキして アエしたりして
 suke etok oyki SITE a=e SITARISITE
 こんど エキムネアナン?? して⁽⁷⁾
 アッカサン apkas=an したんだけども
 なんも やまにみつけない なんもない
 あるいても あるいても
 なんもないから こんど
 かえって くるのに かえってきたけ
 また アマチ いっしょけん
 スケエトコイキして え、なべかけて

そうして一緒に何年
 何年も一緒に暮らす間に
 再び猟のために山へ行って
 山へ行きましたがウサギ
 の姿もなく、キツネの
 足跡も何も見つけられずに
 家に帰ると
 私の妻は食事の準備を
 するために一生懸命に
 しているところに私は
 帰ってきて、すぐに
 「今日は何もなくて、ウサギも
 何も見るができない
 その影もない
 足跡もないので帰ってきた」と
 言う「前に穫ったのが
 あるから、また明日でも行けば
 いるでしょう」というように
 言って、食事の準備をして
 あるのをきちんと
 食べられるようにして
 私が食べてから
 横になって、翌朝
 早起きして
 食事の準備ができて私は食べて
 から山へ行って
 歩いたのだが
 どんな動物も山で見ることがない
 歩き回っても
 何もいないから
 帰ってくると
 また、妻は一生懸命に
 料理の準備をして鍋をかけて

そこさ スケエトコイキして
 いたのに こんど
 そのブ、ブクサ、どうゆうふう
 したかと おもって、、、
 オハキソン ワ、、 oharkison wa
 アイヌ aynu ことばでいわれたんだけど、、
 オハキソンワ、、 こうゆう
 まどのしたに かくれて すわって
 かくれて みていたけ その アマチヒ
 エネイキヒ アヌカッ したけ
 ene ikihi a=nukar SITAKE
 ポロマササ ポロマササしたけ
 poro masasa poro masasa SITAKE
 こんど オ、オソロホ osoroho から
 こ、リセリセ rise rise したけ⁽⁸⁾
 ピッカ ブクサ あの、、とって
 こんどそれ ピッカノ pirkanon
 フライエ huraye して
 その カム イセボカムたり
 はいっているとき フライエして
 フンパ hunpa して フライエして
 入れたの こんど みた
 みたんだけども こんど
 ヘトボホシピ hetopo hosipi して
 またやまさ いて
 いったふりして こんど かえってきて
 いまかえってきたようなかっこして⁽⁹⁾
 かえってきたけ
 イポロウェンカネアン して
 iporo wen kane an SITE
 いたんだけども いま かえって
 やまから いま きたようなかっこして
 はいって いったけ アマチイポロウェン
 して こんど スケ まッケ⁽¹⁰⁾
 したんだから あの、、したけ

そこで料理の準備をして
 いたのだが
 あの行者にんにくはどのように
 入手していたのだろうかと思っていたので
 左座(の窓)から、、
 アイヌ語で言われたんだが、、
 左座(の窓)から、、こんなふうに、、
 窓の下に隠れて、座って
 隠れて見ていると私の妻が
 どのようにしたのかを見たところ
 大きく股を広げて
 そして、お尻から
 むしりむしりすると
 新鮮な行者にんにくを採って
 それを良く
 洗って
 そのウサギの肉とか
 入っているところへ、洗って
 刻んで洗って
 入れたのを見た
 見てしまったが
 また、引き返して
 また、山へ行って
 行ってきたように見せかけて来て
 たった今、帰ってきたような様子で
 帰ってくると
 (妻は) 顔色を変えて
 いたが、たった今帰って
 山から今、来たように見せかけて
 (家に)入ると、妻は顔色を変え
 てから料理を
 してから

こんど そのマチヒ ゆうのには	妻が言うことはこうであった
アシヌマ アナクネ アイヌカ	
asinuma anakne aynu ka	「私というのは、人間では
ソモアネ リクンモシッタ	
somo a=ne rik un mosir ta	ありません。天の世界に（いた）
あの ブクサトノ ネ して	
ANO pukusa tonono ne SITE	行者にんにくの女神であって
こん、アカ、あたらしい	この新しい
この アカリモシッ a=kar mosir さ ⁽¹¹⁾	地上の世界に
おろされたんだのに こんど	降ろされたのだが、これから
モシッイキリ mosir ikiri ⁽¹²⁾ それこそ、	世界中にそれこそ、
ブクサ トノ アネ するもんだから	私は行者にんにくの女神であるから
それこそ モシッエピッタ mosir epitta	世界中に（行者にんにくを）
ちらかしてたか でていんだけど	散らかせたから生えているのだが
そこに みたけ おまえが その	見ると、お前は
チャナン オッカイポで だれも	頼りない男であり、誰も
きょうだいも なにもないで、	身内もなく
ヤイウエンヌカ ヲ yaywennukar していたの	苦勞しているのを
みたもんだから こんど	見てしまったので
そのなり ぶっとぼしておけば	そのままにしておいては
かわいそうだから こんど	可哀想なので
アイヌに ヤイカ ヲ yaykar して きて ⁽¹³⁾	人間に化けて来て
ここで いっしょにいて なんねんと	ここで一緒に何年も
おまえと いっしょにいたんだけど	お前と暮らしていたのだが
じぶんは ここでこうやって	私がここでこのように
いつまで いるって エネ、 ene	長くいるつもりだったが、このように、
その、じぶんのやること おまえ	私がしていたことをお前は
ぜんぶ やったこと おまえみたから	全てを見てしまったから
そうしたら じぶんは そこ、ここで	そのために私はここには
いっしょにも いられないから	一緒に暮らせないから
じぶんは カムイに	私は神に
ブクサカムイトノネ しゆるから	
pukusa kamuy tonono ne SYURUKARA	行者にんにくの女神になるから
イウォロルン iwor or un いて ⁽¹⁴⁾	沢の方へ行って
それこそ モシッイキリ	それこそ世界中

モシリエピッタ プクサトノなって
 プクサにして アイヌにたすけて
 ゆき、はるさきなれば ゆきとけたら
 みんなに たべてもらって
 たすけてもらうために
 じぶんは やまさいくんだから
 じぶん いなくても あー、どっからか
 チャナン メノコ エッしたら
 エトウラノ エ、e=tura no いれば
 こんど エキムネ おまえがやまいったら
 プクサ いっぱい あったら
 とってきて スケして それ
 エパロイキすれば いいからって
 そうゆって そのおんなプクサ
 きれいなおんなだったけども
 こんど まどからではって⁽¹⁵⁾
 そんなり いったけ いてしまっ
 ていなくて あとにない
 じぶんがわるい ウェンクル wenkur⁽¹⁶⁾
 するもんだから そうやって
 そうゆうふうに どうやって
 ふゆも なつも プクサオハウぱり
 くわされたの それがげんざいに
 じぶんのめでみたくて したのが
 ウェンクルで パロコアッ parkoat して
 えー、イヌ⁽¹⁷⁾ 、、、inukuri
 どうしゆることもできないで
 このよ さったからって ウェンクル
 ゆったって みちかいんだ⁽¹⁸⁾

世界中に、行者にんにくの女神に戻って
 行者にんにくで人間を助けて
 春になり雪が溶けたら
 大勢の人に食べてもらい
 助けるために
 私は山へ行くのだから
 私がいなくても、どこからか
 小さい女が来たら
 お前と一緒に暮らして
 お前が山へ行ったなら
 行者にんにくがたくさんあるなら
 採って料理して
 お前が養えばいいのさ」と
 言って、妻の行者にんにく
 美しい女性であったのだが
 窓から出て
 そのまま行ってしまい
 いなくなった後で私は泣いた
 私が悪い貧乏人
 だったものだから
 どのようにして
 一年中、行者にんにくのおつゆばかり
 食べていたのかを実際に
 自分の目で見たくなり、見てしまうと
 貧乏人に罰が当たって
 生活ができない、、
 どうしようもなくなって
 この世から去ったと、貧乏人が
 言ったんだと。短いんだ。

「赤ちゃんを置き忘れて逃げた女-1」(10分6秒)

< 本 文 >

アウンアン アオナアン ヒネ オカアンペネ
 a=unu an a=ona an hine oka=an pe ne. 私の母と父がいて私たちは暮らしていた
 アオナ アウ、アオナ⁽¹⁹⁾で
 a=ona a=ona DDE 私の父、あ、私の父で、
 アホクフアナツネ パクノ ニシパ イサムニシパ
 a=hoku anakne pakno nispa isam nispa 私の夫は、これほどの旦那はいない旦那が
 アホクネヒネ エキムネコロ
 a=hoku ne hine ekimne kor 私の夫であって山へ猟に行くと
 ユクネチキ カムイネチキ
 yuk ne ciki kamuy ne ciki 鹿でも熊でも
 エアウナレラ レッ アエルスイカ⁽²⁰⁾
 eawnarura nep a=e rusuy ka 運び、何を食べたいとも
 アコンルスイカ ソモキノ アナンルウエネ
 a=kon rusuy ka somo ki no an=an ruwe ne 欲しいとも思わないで暮らしていた
 アシヌマ アナツネ シツチュツコロ
 asinuma anakne sitcuk kor 私は秋になると
 それこそ ニナア ニナア したり
 SOREKOSO nina a nina a SITARI それこそ、薪を採り続けたり
 トイタして ウサアマム ウサオカイベ
 toyta SITE usa amam usa okaype 畑を起こして穀物とかいろいろな物、
 ポロイキリ アカラコロ アナンルウエ、
 poro ikiri a=kar kor an=an ruwe,, たくさんの山を作って暮らしていること
 コロカ パク ほすいものは ポホ
 korka, pak HOSUIMONHA poho けれども、ただ欲しいものが子供、
 ほすいポホサッして エイコイトツパ
 HOSII poho sak SITE eykoytupa 欲しい子供がいなくて、うらやましい
 ポエイコイトツパ して アナンルウエネ
 po eykoytupa SITE an=an ruwe ne 子供を望みながら暮らしていた
 アホク エキムネせば ウサチカッ
 a=hoku ekimne SEBA usa cikap 私の夫は山へ猟に行けば鳥とか
 ウサオカイベ ポロイキリ コロワ
 usa okaype poro ikiri kor wa ek いろいろな物を山にして持って

エッするから アエルスイカ

ek SURUKARA a=e rusuy ka

ほかのものはなんも ほすくもないけど

ポホだっけ こどもだっけ

ほしくていのに こどもできない

ラポッケへ こんど う、エクッコンナ

rapokkehe KONDO ekuskonna

じぶん はらおおきくなって

いたあのも しらないで

アナンルウェネ そして アホクフ

an=an ruwe ne SOSITE a=hokuhu

エキムネ すれば ああ、

イワッ iwak しれば こんど

エ、エシソウン シキル しれば

esisoun sikiru SIREBA

じぶんさ ああ、うしろふりむいて⁽²¹⁾

みている うー、まえさむけば

そうやって むいていて したっけ

アホクフ エネハウエアニ

a=hokuhu ene hawe an hi

おまえ ポ ホンコッしているなって

いったけ なんだかそうらしいって

いったけ そういったけ アホクフ

よろんで なおよろこぶもんだから

ソレクス いっしょけん

じぶんさ なんもさせないで

ニナしたり ウサオカイベ ポロイキリ

nina SITARI usa okay pe poro ikiri

ふゆなれば くべるまきやら

くうものやら ちゃんとこさえていて

そして そのうち は、はるになって

こんど あかんぼうできたけ

ピリカオケレ オッカイポ アコッ

pirka okere okkaypo a=kor

したけこんど う、うちにばり

来るので (何を) 食べたいとも

何を欲しいとも思わないのだが

子供だけが

欲しいのに、子供ができない

その頃、急に

自分のお腹が大きくなって

いたことも知らないで

私がいると、夫が

山へ行ってから

帰ってくると

右座へ振り向けば

自分の後を向いて

観察している

そのようにしていると

私の夫がこのように言う

「お前、妊娠しているな」と

言うので「何やらそうらしい」と

答えると私の夫は

大喜びで

本当に一生懸命に

私には何もさせないように

薪取りをしたり、様々なものの山を(作り)

冬になったら燃やす薪や

食べ物をきちんと用意してくれた

そうしているうちに春になると

待ち望んだ赤ん坊が生まれると

可愛い男の赤ちゃんを産んだ

後、家の中ばかりに

いれば あれだから こんど
 エキムネ、アホクフエキムネワ
 ekimne, a=hokuhu ekimne wa
 イサム オカケへ アコロソソ おんぶって
 isam okakehe a=kor son ONBUTTE
 アコロ ワッカタ ナイトウラシ
 a=kor wakkata nay turasi
 アラバアニネ え、あの、
 arpa=an hine E,,ANO
 ポロ ケナッアンヒネ
 poro kenas an hine
 ケナッオッタ それこそ
 kenas or ta SOREKOSO
 トウレッ ピリカして
 turep pirka SITE
 タ、アタ アタアして アコロソソ
 ta, a=ta a=ta a SITE a=kor son
 ホッケレして ラポッケ タして
 hotkere SITE raportke ta SITE
 ひととこいっばい あつめて
 こんど そのとこで え、その
 トウレッ ラハ きるながら⁽²²⁾
 それこそ ポロシノッチャ
 SOREKOSO poro sinotca
 ア、アイエコロ トウレッ ラハ
 a=ye kor turep raha
 アトウイエア アトウイエアして こんど
 a=tuye a a=tuye a SITE KONDO
 ポロサラニッ シッテノ アカラヒネ
 poro saranip sikte no a=kar hine
 こんど アナ、アコロソソ モコワアン
 KONDO a=kor son mokor wa an
 しるもんだから こんどその
 アコロソソ ウ、ホッケラポッケへ ネノ
 a=kor son hotke rapokkehe neno

いても退屈なので今度
 彼が山へ行き、夫が山へ猟に行つて
 いない後で私の赤ちゃんを背負つて
 水汲みの沢に沿つて上つて
 行つて、、
 大きな木原があつて
 木原の所で、とても
 ウバユリが良くて
 掘り続けて、私の赤ちゃんを
 横に寝かせて、(ウバユリを)掘つて
 一ヶ所に集めて
 から、その場所で
 ウバユリの葉っぱを切りながら
 大きな声で歌
 を歌いながらウバユリの葉っぱを
 私は切り続けてから
 それを大きな袋一杯に詰めて
 そして、私の赤ちゃんが寝ている
 ものだから、今度その
 赤ちゃんが寝ている間にそのように

トゥレッ ポロイキリ タしていたけ	
turep poro ikiri ta SITEITAKE	ウバユリの大きな山にしながら
ポロ シノッチャ アイェアクス	
poro sinotca a=ye akusu	大声で歌うと
じ、じぶんシノッチャ アイェしている、う	
ZIBUN sinotca a=ye SITEIRU	自分の歌を歌っていると
エンカッケウン ポロチクニ アンペネ	
enkaske un poro cikuni an pe	私の上の方に大きな木があり
ネ チクニオッタ それこそ カムイ エ、、	
ne cikuni or ta SOREKOSO kamuy	その木のところで熊が
ポロハウエサンケして、えー、	
poro hawe sanke SITE	大きな声を出して
テッオロキッキク コロ ポ、、	
tek or kikkik kor po,,	手を叩きながら
カムイ テ、ポロハウエサンケしたの	
kamuy poro hawe sanke SITANO	熊が大きな声を出したのを
アヌ a=nu したけ こんど	私が聞くと
なんぼなんだってって	いくらなんでも (語り手の感想である)
ばばゆけど こんど その	婆が言うけど、今度、その
カムイ ポロハウエサンケ したの、う、こんど	
kamuy poro hawe sanke SITANO KONDO	熊が大きな声を出したのを (聞いて驚き)
じぶんのわらし ホッパ hoppa して	自分の子供を残して
こんど トゥレッもみんな ホッパして	ウバユリも全て残して
こんど じぶんのうちさ さがってきて	自分の家へ下がって来て
チットウラノ エカンエッしたけ	
cis turano ek=an ek SITAKE	泣きながら帰って来ると
かえってきたけ アホクフ アンヒネ	
KAETTE KITAKE a=hokuhu an hine	帰ってくると夫がいて
アホク イワッヒネ エネハウエアニ	
a=hoku iwak hine ene hawean hi	夫が帰っており、このように言った
なして アマチ アコロソンわって	
NASITE a=maci a=kor son WATTE	「どうした妻よ、赤ちゃんは？」って
タネカネ	
tapne kane	(聞かれたので) このように (言った)

アッパアンワ トウレツタ、タして
 ”arpa=an wa turepta ta SITE 「(山へ) 行ってウバユリ採り、採って
 トウレツ ポロイキリタして アコロソン
 turep poro ikiri ta SITE a=kor son ウバユリをたくさん収穫して赤ちゃんの
 モコロさしている ラポッケへ
 mokor SASITEIRU rapokkehe 寝ている間に
 シノツチャトウラ アイェ シ、シノツチャキ
 sinotca tura a=ye sinotcaki 節をつけて歌を歌った
 したけ こんど カムイ、イカウ
 SITAKE KONDO kamuy i=ka un そうすると熊が私の上に
 エンカッケウン テッオロキッキッコ
 enkaske un tek or kikkik kor 私の上で手を叩きながら
 ポロハウエサンケして ネワアンペ
 poro hawe sanke SITE ne wa an pe 大きな声を出していたのが
 イシトマして こんど アコロソン
 isitoma SITE KONDO a=kor son 恐ろしかったので、赤ちゃんを
 もってくるのを わすれて 抱いて来るのを忘れて
 おいてかえってきたって いったけ 置いて帰って来た」と言ったところ
 アホクフ イルッカヒネ オロワノ こんど
 a=hokuhu iruska hine orowano KONDO 私の夫は怒って、それから
 いっしょけん イナウケして、ち、
 ISSYOKEN inawke SITE,, 一生懸命にイナウを削って
 カムイフチさ それこそ ネウンポカ
 kamuy huci SA SOREKOSO neun poka 火の神に「何とかして
 アコロソン エブンキネワ くれよって
 a=kor son epunkine wa KUREYOTTE 私の赤ちゃんを守ってくれよ」と
 だれから イナウチバさ いて⁽²³⁾
 DAREKARA inaw cipa SA ITTE 祈ってから、幣場に行って
 カムイノミ チセオッタ いて
 kamuynomi cise or ta ITE 神に祈り、家の中において
 カムイノミして よいっばい 神に祈って、夜通し
 そうやってカムイノミ そして、 そんなふうに神に祈って
 ク、アコロ オヤンジ こんど 私の夫はその次に
 ク、クとアイと コロカネして
 ku TO ay TO kor kane SITE 弓と矢を持って

こんどその むすこのねているとこさ	そして、息子の寝ている所へ
いったけ そのカムイこんど、あ、	行くと、その熊が
じぶんの わらしだ	私の子供に
パルンベサッ、サンケヒネ	
parunpe sanke hine	舌を出して
ヌンヌンテコホアンして こんど	
nunnunte kor an SITE KONDO	吸わせながら
アコホクフ う、はなれていて あれから	
a=kor hokhu HANARETE ITE AREKARA	私の夫はそこから離れて
カムイノミするながら アイだか	
kamuy nomi SIRU NAGARA ay DAKA	神に祈りながら矢を
アニ チョッチャ したんだと	
ani cotca SITANDATO	用いて射った
そしたけ こんどそうしたら	そして
ネ カムイ アプンノ アコロソンから	
ne kamuy apunno a=kor son KARA	その熊が無事に赤ちゃんから
はなれて、え、エキムネアラバして	離れて、山の方に行って
そして そこさいって、あれから、あ、	そして(私が赤ちゃんの所へ行って)
じぶんのわらしだいて なきながら	自分の子供を抱いて泣きながら
わらしだいて、え、こんど	子供を抱いて、今度は
アホクフ アナッネ カムイオルン	
a=hokuhu anakne kamuy or un	夫は神へ
オンカミア オンカミアしながら こんど	
onkami a onkami a SINAGARA KONDO	何度も礼拝した。そして
ポロカムイ ネ しるもんだから	
poro kamuy ne SIRUMON DAKARA	大きな熊だったので
こんどアコロソン ああ、おんぼって	赤ちゃんを背負って
こんど そのカムイさ、あとぼって	その熊の後を追って
みたけ スマウネ sumawne しているのに	見ると、獲物になっているのだが
ポロ カムイなもんだから	大きい熊なので
もって、ひとりではもって	なので一人では運べ
これないもんだから さがってきて	ないので(村へ)下りて
コタンケスン コタンパウン ウ、	
kotankes un kotanpa un	村の下手へ村の上手へ、

ひと たのんで いった	村人に頼んで、
その カムイ リ ri したけ	熊を解体したら
それこそ ピイエ piye して、ええ、	本当に脂が乗って
おいしいにく いっぱいあって こんど	おいしい肉がたくさんあって
みんなで もってさがって こんど	みんなで担いで下りて
カムイ ピッカ カムイ だから	
kamuy pirka kamuy DAKARA	良い熊なので（熊送りをするため）
す、さけサッノ カムイだか カムイおくり	
SAKE sakno kamuy DAKA kamuy OKURI	酒がなくては熊送りを
できないからって いうことして	できないということ
こんど みんな はやいもんで さけ	みんなで急いで酒（を作るため）
イウタ iuta して さけこさえて	穀物をついて酒を造って
ピッカさけ かさえて こんどその	良い酒を造ってから
カムイ イナウ トウンブオマレして ⁽²⁴⁾	
kamuy inaw tunpu omare SITE	熊とイナウを部屋に入れて
ちゃんとして マラット maratto して	きちんと酒宴を開いて
くまおくり ちゃんとしたけ こんど	熊送りを立派に行くと
そのばん ウェンタラッ wentarap	その夜に夢を
アホクフ ウェンタラックス	
a=hokuhu wentarap kusu	夫が夢をみると
ピッカワオケレ コソ、ン、あのカムイ、エ、	
pirka wa okere koso,, ANO kamuy	とても美しい小袖、神、
ピッカコソソテ ミカネアン カムイ	
pirka kosonte mi kane an kamuy	美しい小袖を着ている神が
エネハウエアニ タンアイヌ オッカイボ	
ene hawean hi "tan aynu okkaypo	このように言った「これ、アイヌの若者よ
イタカンチキ エヌカトゥアニ	
itak=an ciki e=nu katu an hi??	私の言うことを聞きなさい??
エシムネ、、エシヌマ アナッネ ⁽²⁵⁾	
esimune,, esinuma(eani) anakne	お前というものは
ケウトゥムから ピッカワオケレ	
kwetum KARA pirka wa okere	心がとても素晴らしい
アイヌウタラバ エネナ	
aynu utarpa e=ne na.	立派な人物であるぞ

アシヌマアナッネ ヌプリコカムイ、エ	
asinuma anakne nupuri kor kamuy	私こそは、山の神
ポホ アネワ チセオッタばかり	
poho a=ne wa cise or ta BAKKARI	の子供であって、家の中にばかり
アナン するもん だから こんど	
an=an SURUMON DAKARA KONDO	いたものだから (退屈なので)
うんどうかたかたに アッカサナクス	
UNDOU KATAKATANI apkas=an akusu	運動をかねて歩いていると
こんどその ピッカシノッチャ それこそカ	
KONDO SONO pirka sinotca SOREKOSO ka	素晴らしい歌が、それこそ
モシリオケレ てんごくまでも	
mosir okere TENGOKU MADEMO	世界中、天の世界までも
きこえた もんだから そのおんなの	聞こえたものだから、その女の
ヤイサマ yaysama が ほれほれになって	歌に聞き惚れてしまい
ね、なんとかして、え、よめさんに	何とかして、嫁さんに
ほしいと おもったけ みたけ	欲しいと思って (近づいて) 見ると
テンネッ ピッカワオケレ ⁽²⁶⁾	
tennep pirka wa okere	赤ちゃんが、とても可愛い
テンネッホッケしているのに こんど	赤ちゃんが横になっている
よなかになったけ チサチサ cis a cis a	夜中になると泣き続けた
するもんだから そんなに おいても	ので、そのままにしては
おかれなくて じぶんのバルンペヘ	おけないので自分の舌を
ト、to ちっちのかわりに なめらして	お乳の代わりに吸わせて
のましていたけ ピッカウタッパ	飲ませていたところ、素晴らしい人物
エネするから エッワ それこそ	
e=ne SURUKARA ek wa SOREKOSO	のお前が来て、それこそ
ピッカ カムイネアンワ それこそ	
pirka kamuy ne an wa SOREKOSO	立派な神として
ウサシト ウサオカイベ	
usa sito usa okaype	団子やいろいろなものの
ポロイキリ アココカネワ ⁽²⁷⁾	
poro ikiri a=kor kane wa	大きな山を私が持って
アウヌ アオナオッタ	
a=unu a=ona or ta	私の両親のところへ

アラパアナクス こんど アオナハカ
arpa=an akusu KONDO a=onaha ka

アウヌフカ イコイキ しても⁽²⁸⁾
a=unuhu ka i=koyki SITEMO

ピッカ ウサハルフ いっぱいもって
pirka usa haruhu IPPAI MOTTE

きたからって よろこんで
けっして そうゆう わるいことは⁽²⁹⁾

するもんでないんだ アントマツ
だから、あ、ケウトウム ピッカ

するから そうやって ちゃんと
ノミして いっぱいごつつお

もらってきたんだから それを、を、
カムイに いって カムイから

ちゃんと まもってやるからって
ゆう ウェンタラッなもんだから

だんだんに こんど じぶんのわらしも
おおきくなって だんだんに

アオナハ ケマパセ⁽³⁰⁾
a=onaha kema pase

するように なったけ
アポホ こんど エキムネワ

a=poho KONDO ekimne wa

それこそ かわりに ユッカムイ⁽³¹⁾
ユツたり カムイたり もってくる

アウヌフカ アオナハカ
a=unuhu ka a=onaha ka

タネ ケマパセ するもんだから
tane kema pase SURU MONDAKARA

どっから せかいから とんできたか
ピッカワオケレ オッ、メノコ

pirka wa okere menoko

エッして トウラノ アナンワ
ek SITE turano an=an wa

行くと、私の父も

私の母も私を叱ったのだが

素晴らしい様々な食べ物をたくさん持って
来たものと喜んだ

けっして、悪いことは

するものでないぞ。恐ろしいもの

だから、(夫の)心が良かった

から、このように大切に

祭って、たくさんのご馳走を

もらってきたのだからな。そのことを

(夫が)熊の神に伝えて、熊の神からも

きちんと守ってやると

いう夢を見せられたので

々と私の子供も

大きくなって、徐々に

父の足腰が弱く

なると

私の子供が今度、山へ猟に行って

それこそ、親の代わりに鹿と熊を

鹿でも熊でも獲ってくる

私の父も母も

今は足腰が弱くなったものだから

どこの世界からやってきたのか

とても美しい女が

来て一緒に暮らして

それこそカ ポ シネナネ

SOREKOSO ka po sinen a=ne

じぶんが ひとりだったけど

こんど じゅうにんくらいも

こどもできて なにひとつ

ふじゆうなくて アナソルウェネナ

アシヌマ、アオナアナツネ イッカヲ

asinuma,, a=ona anakne iskar

ホントムだか イッカヲだか

hontom DAKA iskar DAKA

どこにあるんだかしらん

そこの、お、ニッパで ちゃんと

コタンエブンキネ モシリエブンキネ

katan epunkine mosir epunkine

して ちゃんと なにごとふじゆう

しないで いたもんだから、そ、

オカケへ アオナオカケへ じぶんがいて

okakehe a=ona okakehe ZIBUNGA ITE

それこそ う、みんなコタンの人らも

ちゃんと なにごとないで

まもって いたルウェネ

ポ、アポホ ポロイキリアン

a=poho poro ikiri an

するもんだから じぶん イサム isam

しても せんぞあって じぶんが

いるんだから せんぞは ちゃんと

ノミして ちゃんと おまつりすれって

そういって シネ、ソ、シネオツカイボ

いって しんだと。

それこそ、子一人の私であった

自分一人であったのが

十人ぐらいも

子供が出来て

しんばいごともなく暮らしたのです

私は、私の父は石狩川

の中程だか、石狩だか、

どこにあるのかは知らない

そこの偉い人になって

村を守り、世界を守り

って何も困ることが

なく暮らしたのです

その後、私の父の後に自分がいて

本当に、村人全員が

何事もないように守っていた

いたのであった

私の子供がたくさんいる

ものだから「私が亡くなくても

先祖がいて、お前が

いるのだから 先祖は丁寧に

お祈りして、きちんと祭りなさい」と

そう言って一人の若者が

語って死んだ、という話だ。

4. 上田トシの語り

「人間の女に化けた行者にんにくの女神－2」（5分33秒）

<あらすじ>

私は他の人間を見ることもなく、一人で暮らす若者でした。ある日、猟から帰ると、自分だけが暮らしているはずの家から煙が上がっていた。家の中に入ると、美しい娘が料理をしていたのだった。挨拶を交わした後で、その娘がおいしい料理を食べさせてくれた。明日にはどこかへ行ってしまおうと思っていたが、彼女はどこにも行かないで毎日の料理を作ってくれたのだった。私が山の仕事から帰ると、彼女は新鮮なおいしい行者にんにくばかりを食べさせてくれるのだが、山菜採りに行った様子もない。冬だというのに今採ってきたような新鮮な行者にんにくばかりを料理して食べさせてくれた。ある日、山仕事から帰って家の中に入る前に窓から覗くと、その娘は鍋を掛けてから、陰毛をどんどん抜いた。それが行者にんにくになって煮込まれていたのだ。その夜、その料理を私が食べ終わると彼女は次のように言った。「私は人間ではない。行者にんにくの女神である。あなたの良い心を知って好きになったので、今まであなたに行者にんにくを食べさせて暮らしていました。もう、神の世界に帰りたくなり、私はいなくなるけれども、後から良い娘が来てお前と暮らすことになるだろう。今まで、あなたを養っていたのだから私を恨まないでください」翌日、娘は家を出て行った。一緒に暮らしていたことを懐かしく思っていたところ、また美しい娘がやって来て一緒に暮らしたのだった。それから、私たちに子供が生まれた。子供たちは一人前になり、私は年老いてしまった。私の死ぬ前に言うておくことは、行者にんにくの女神には世話になっているので、行者にんにくというものは、あまりひどい採り方をするのではないぞ、と一人の男が語った。（報告者によるあらすじ）

< 本 文 >

シネオツカイボ アネヒネアナンワ ⁽³²⁾	
sine okkaypo a=ne hine an=an wa	一人で暮らしている若者が私でした
ヤイパロスケアンコロ アナン	
yayparosuke=an kor an=an	自分で炊事をしながら暮らし
アイヌヌカヲカ アヲ、アエラミツカリノ	
aynu nukar ka a=eramiskari no	(他の)人間を見たこともなく
アナンワ エキムネアニネ	
an=an wa ekimne=an hine	私は暮らして、山へ猟に行って
イワカンヤッカ ネッカ ブイネ	
iwak=an yakka nep ka puyne	帰っても何でも、一人で

アナンペネクス	
an=an pe ne kusu	私は一人で暮らしているので
ヤイパロスケコロ、ア、アンコロ、	
yayparosuke=an kor	自分で炊事しながら
アナンペネアッ	
an=an pe ne a p	暮らしていた者であったが
シネアンタ	
sine an ta	ある日
イワカン アクス イエトコタ	
iwak=an akusu i=etoko ta	帰ると私の前方に
スッ、スプヤアッコロ アンヒネ	
supuya at kor an hine	(自分の家から) 煙が上っていて
オラ アフナン ルウェネアクス	
ora ahun=an ruwe ne akusu	(自分の家に) 入ると
ピッカワオケレ ポンメノコ	
pirka wa okere pon menoko	とても美しい娘が
スケコロ アンヒネ	
suke kor an hine	料理をしていて
オロタ アフナンルウェネア、 ⁽³³⁾ ネア	
oro ta ahun=an ruwe ne akusu	そこに入ると
アエランカラッテクス	
a=erankarapte kusu	私が挨拶をしたので
イエランカラッカ キヒネ	
i=erankarap ka ki hine	彼女も私に挨拶をして
オラ ピリカスケ キヒネ	
ora pirka suke ki hine	それから美味しい料理をして
イイベレワ イベアンカ キ	
i=ipere wa ipe=an ka ki	私に食べさせてくれた
オラ ニサッタ ネウンカアラッパ	
ora nisatta neun ka arpa,	明日にはどこかへ行ってしま
ペネクナッ アラムコロ	
pe ne kunak a=ramu kor	ものだと私は思って
アナン ルウェネア クラム ⁽³⁴⁾	
an=an ruwe ne a korka??	いたのだったが

ネウンカア _ラ パカ ソモキノ	
neun ka arpa ka somo ki no	どこにも行かないで
オラノ ケットアンコロ スケワ	
orano kesto an kor suke wa	それから毎日料理をして
エキムネアンワ イワ _ク アンコロ、イ、コロ、	
ekimune=an wa iwak=an kor	私が獵に行って帰ると
ピッカ スケキコロ アンヒネ オラ	
pirka suke ki kor an hine ora	ごちそうを作っていて
プ、プクサタ ヒネ ネ プクサ アニ	
pukusata hine ne pukusa ani	行者にんにくを採って、その行者にんにくで
スケワ イイベレ、エ、、	
suke wa i=ipere	料理して私に食べさせた
ネ プクサ ネヤッカ	
ne pukusa ne yakka	その行者にんにくにしても
タ _ッ アタ ワ エ _ッ プクサネワ	
tap a=ta wa ek pukusa ne wa	たった今採って来た行者にんにくで
ピッカ プクサパテ _ッ スパワ	
pirka pukusa patek supa wa	美味しい行者にんにくばかりを煮て
イエレワ アエコロ	
i=ere wa, a=e kor	私に食べさせて、私は食べながら
アナンベネ ヒケカ	
an=an pe ne hike ka	私が暮らしていたところだったが
オラ ヒネ ヒナ _ク ワ コロワエ _ク	
ora hine hinak wa kor wa ek	どこから持ってきた
プクサネヤ アエラミ _ッ カリノ オ、	
pukusa ne ya a=eramiskari no	行者にんにくなのか知らないままに
プクサパテ _ッ 、、エ、、	
pukusa patek,, e,,	行者にんにくばかり、食べ、、
クンネイワ ヘネ エ、エキムネ シリカ	
kunneywa hene ekimne siri ka	朝でも彼女が山に行く様子も
アヌカ _ッ カ ソモキ _ッ	
a=nukar ka somo ki p	私は見たこともなかったのだが
プクサ スパワ アエ オラ	
pukusa supa wa a=e ora	行者にんにくを煮て食べて

マタネヤッカ プクサ、ア、タッアタ	
mata ne yakka pukusa tap a=ta	冬でも行者にんにく、今採ったばかりの
ピッカ プクサバテッ スバヒネ	
pirka pukusa patek supa hine	新鮮な行者にんにくばかり煮て
アエコロ アナンペネアッ	
a=e kor an=an pe ne a p	私は食べていたものだったが
コロカ ネウンアラムカ	
korka neun a=ramu ka	けれども、どう考えも
ソモキノ アナン アッ	
somo ki no an=an a p	しないでいたのだったが
シネアンタ	
sine an ta	ある日
エキムネアンヒネ イワッアン、ヒ、ヒネ	
ekimne=an hine iwak=an hine	私が猟から帰って
プヤッカリ インカラン	
puyar kari inkar=an	窓を通して (家の中を) 見る
ルウェネアクス、ウ、、スアッテ、	
ruwe ne akusu su atte	と彼女が鍋を掛けて
ネア ポンメノコ スアッテヒネ	
nea pon menoko su atte hine	あの娘が鍋を掛けて
ライチ、チ、チン、チンテヤヤ カネヒネ ⁽³⁵⁾	
ray cinteyaya kane hine	大きく股を広げながら
オラ、、ヤイ、ヨリ、ヨリ、リッバリッパ アクス ⁽³⁶⁾	
ora yayorisparispa akusu	それから、陰毛をどンドン抜くと
ピッカプクサ ネ ヒネ	
pirka pukusa ne hine	素晴らしい行者にんにくになって
オラ ナニスバ ヒネ	
ora nani supa hine	それからすぐに煮て
ネ アン、、エアンチカリ スオロワ	
ne ancikari su or wa	その夜、鍋の中から
アエ ルウェネアッ	
a=e ruwe ne a p	私は食べたのだったが
イベオカアン アクス オラ	
ipe oka=an akusu ora	食べ終わった後に

エネハウエアニ

ene hawean hi

タンオツカイボ イタカンチキ

"tan okkaypo itak=an ciki

エヌカトゥアナッ エネアニ⁽³⁷⁾

e=nu katu anak ene an hi

ネッ アイヌ アネワ、ア、ア、、

"nep aynu a=ne wa

アナンシリカ ソモネアッ

an=an siri ka somo ne a p

エネ エイアンヌアッテ シリ⁽³⁸⁾

ene e=iannuaste siri

ア、アエラマン ルウェネココカ

a=eraman ruwe ne korka,

アシヌマアナッネ プクサトノ

asinuma anakne pukusa tono

アネヒネ アナンルウェネココカ

a=ne hine an=an ruwe ne korka

エイタサ エコロ ケウトウム ビッカシリ

eytasa e=kor kewtum pirka siri

アエコオヨイセヒクス、ス、⁽³⁹⁾

a=e=kooyoyse hi kusu

アコロプクサボカ アタワ

a=kor pukasa poka a=ta wa

ア、アエ、アエエレ、、

a=e=ere,,

アエパロオスケ、エ ボカ

a=e=paroosuke poka

キルスイクス エカニ、ネ

ki rusuy kusu ek=an hine

ネッ、、アコロプクサ、ア、エエコロ

nep a=kor pukusa e=e kor

テパッノ エアン ルウェネアココカ

te pakno e=an ruwe ne a korka

彼女がこのように言った

「これ、若者よ。私が言ったなら

よく聞きなさい??

何の人間として

私がいたことでもなかったが

このようにお前が覗き見した様子を

私は知っていたけれども

私こそは行者にんにくの女神

であったのだけれども

あまりにお前の気持ちの美しい様子に

私はお前を好きになってしまったため

私の行者にんにくでも採って

私はお前に食べさせ、、

お前を養うことでも

したくて来て

私の行者にんにくをお前が食べながら

これまで、お前はいたのだけれども

タネ エ、ヤイカタカ オンネアンワ	
tane yaykata ka onne=an wa	今はもう、自分も年老いて
カムイオルン アッパアン ルスイクス	
kamuy or un arpa=an rusuy kusu	神の世界へ行きたくなくなったので
テワノ アナクネ イサマンヤッカ	
tewano anakne isam=an yakka	これからは、私がいなくなっても
ネイワカ ピッカオツカイボ エツワ ⁽⁴⁰⁾	
ney wa ka pirka menoko ek wa	どこからか良い若者(娘)が来て
ネヤクン エパロオスケ ナンコックス	
ne yakun e=paroosuke nankor kusu	そうしたら、お前を養うだろうから
ブクサ トノ アネワ	
pukusa tonon a=ne wa,	行者にんにくの女神が私であって
イパロイキ セココアンベ	
i=paroyki sekor an pe	私に養わせていたということ
エエヤイコシラムスイバ ワ	
e=eyaykosiramsumpa wa	お前はよく考えて
イ、イ、ヤッ ピルカイコイルッカ	
i,i,, yak,, pirka i=koiruska	くれたらよい、私に怒る
ソモキヤッ ピルカナ セココ	
somo ki yak pirka na" sekor	のではないのだぞ」と
ネ ポンメノコ ハウエアン ルウエネヒネ	
ne pon menoko hawean ruwe ne hine	その娘が言ったので
エアッキンネ イヨクンヌレアアナ	
earkinne iokunnere=an a an a	本当に私は驚いた
ルウエネ ヒネ オラ	
ruwe ne hine ora	のだった、そして
トゥラノ ア、アナンラポッケ オラ	
turano an=an rapokke ora	一緒にいたところ
ネ ポンメノコ イシムネ ネヒケ	
ne pon menoko isimne ne hike	その娘は翌日になって
ヤイツイェネヤラ クス	
yaysoyeneyar kusu	自分から家を出たので
オアラ イサム ヒ、ココカ オラ	
oar isam hi, korka ora	まったくいなくなったことだけれども

エネ ヒ、ヒナ、、 プクサタワ
 ene pukusata wa
 イバロスケ ア ヲ セコロ
 i=parosuke a p sekor
 ヤイヌアンコロ アナン
 yaynu=an kor an=an
 ラポッケヘ ネワネヤ
 rapokkehe ne wa ne ya
 ピッカ ポンメノコ スイ エキネ
 pirka pon menoko suy ek hine
 イバロイキコロ アンワ ラポッケ
 i=paroyki kor an wa rapokke
 トッラノ アナンワ
 turano an=an wa
 アコボコロ カ キ、イ、、
 a=kopokor ka ki
 ルウエネヒネ オラ オンネ、オンネアン
 ruwe ne hine ora onne=an
 アコロソソウタラ カ ルッネパワ
 a=kor son utar ka rupnepa wa
 オンネアンエトコタ タッネカネ
 onne=an etoko ta tapne kane
 プクサ トノ
 pukusa tonono
 イバロイキッネ アクス
 i=paroyki p ne akusu
 プクサアナッネ エイタサ、ア、
 pukusa anakne eytasa
 ウェンノ アカラ、ソ、ソモキッネナ
 wenno a=kar somo ki p ne na”
 セコロ シネ アイヌ イソイタッって。
 sekor sine aynu isoitak TTE.

あのように行者にんにく採りをして
 私に養わせていたものだがなーと
 思いながらいた
 ところ、どこからか
 きれいな娘がまた、やって来て
 私に食べさせていたところ
 一緒に暮らして
 私との間に子をもうけ
 まして、それから私は年をとり
 私の子供たちも大きくなって
 死ぬ前に、このように
 行者にんにくの女神が
 私を養ってくれたので
 行者にんにくというものは、あまり
 ぞんざいに採るものではないのだぞ」
 と、一人の男が語った

「赤ちゃんを置き忘れて逃げた女-2」(13分59秒)

<あらすじ>

私は狩の上手な夫と連れ添い何の不自由もなく暮らしていたが、子供がいなくて子供だけを欲しいと願っていた。子供がいなくて寂しさをまぎらすため、尚一層働いていると、私は妊娠することができた。夫は私が流産をしないように外の仕事は何もさせてくれません。しばらくして出産すると夫はますます子供を大事にした。私は子守りのため家の中にばかりいて退屈でした。赤ちゃんも少し大きくなったことなので、我慢できずに赤ちゃんを背負い、ウバユリ掘りに行った。山へ行くと素晴らしいウバユリの群生地を見つけて一生懸命に掘りました。赤ちゃんを地面に寝かせて、しばらく歌っていなかった歌を私は口ずさみました。その歌声が木原の隅々まで響きわたるのが面白くていっそう歌い続けた。突然、若い熊のうなり声が聞こえて驚き、私は大事に育てていた赤ちゃんのことも忘れて一目散に逃げたのであった。家にたどり着くと赤ちゃんを忘れたことに気づき大声で泣きました。そこへ、夫が帰って来たので事情を話すと驚いた夫は神々全てに危急を知らせて赤ちゃんの無事を祈りました。夜が明けて、私たち二人一緒に山へ行くと、例の熊が赤ちゃんの上に覆い被さっていた。近くに行くと熊は起きあがって赤ちゃんから離れた。夫は弓矢で熊を倒してから赤ちゃんを見ると、赤ちゃんの無事な姿に安心して熊に礼拝した。その夜、夫の夢の中に熊の神があらわれて言うのには「私が何気なしに歩いているとお前の妻の歌声が聞こえた。その歌がとても面白いので近くにある木の上で聞いて、驚かさないように気をつけていたのだが、つい笑いながら拍手をしてしまった。お前の妻は慌てて逃げ帰ったのだ。後に残された赤ちゃんの面倒をきちんと見なければならぬことをお前の祈りを聞いた神々から伝えられた。私は自分の舌をお乳の代わりに吸わせて面倒をみていたのだ。そのことを神々に報告すると共に私も神の世界へ送ってくれ」という夢であった。私たちは村人と一緒に熊の魂を丁重に送った。するとそれから夫は熊に見守られているらしく、ますます獲物に恵まれ、子供も元気に育った。私たちが長者になったのも熊の神様のおかげだから、いつまでもきちんと祭るのですよ、と一人の女が語って死んだ。(報告者によるあらすじ)

< 本 文 >

アコンニッパ トウラノ オカアンワ

a=kor nispa turano oka=an wa

夫と一緒に私は暮らして

ピッカ ウヘコッパ アキコロ

pirka uhekotpa a=ki kor

互いに連れ添いながら

オカアンベネ ヒケ

oka=an pe ne hike

暮らしていたところ

アヘコテニッパ イソングル ネクス
 a=hekote nispa isonkur ne kusu
 ネッカ アエルスイカ アコンルスイカ
 nep ka a=e rusuy ka a=kor rusuy ka
 ソモキノ オカアンペネ コッカ
 somo ki no oka=an pe ne korka
 パテッ アエイコイトゥパッ ポサカンワ
 patek a=eykoytupa p posak=an wa
 ポエイコイトゥパアン
 poeykoytupa=an
 イヨマッエイコイトゥパアンコロ
 iomapeykoytupa=an kor
 パテッ オカアンペネ、エヒケ、、ワ
 patek oka=an pe ne hike,, wa,
 ポヘネ ポサカンヒ アラムワ
 po hene posak=an hi a=ramu wa
 ポヘネ エ、ソイタネッキ ネヤッカ
 po hene soy ta nepki ne yakka
 チセ、、オッタ ネッキネヤッカ
 cise or ta nepki ne yakka
 アエトランネカ ソモキノ
 a=etoranne ka somo ki no
 ネッキアンコロ アナンペネアッ
 nepki=an kor an=an pe ne a p
 コロ アナンラポッケ ホンコロアン ヒネ
 kor an=an rapokke honkor=an hine
 エアッキンネ アヘコテニッパ
 earkinne a=hekote nispa
 エヤイコブンテキ
 eyaykopuntek hi,,,
 オロワノ アナッネ ネッカ アカリカ
 orowano anakne nep ka a=kar hi ka
 イココパン アウ、、ニナボカ アキカ
 i=kokopan nina poka a=ki ka

私の夫は狩の上手な人なので
 何を食べたいとも欲しいとも
 思わないで暮らしていたのですが
 ただ羨ましく思うのは子がないので
 私たちは子を欲しがり
 子を可愛がりたいと
 ばかり（思って）暮らして
 ますます、子がないことを思うから
 なおいっそう、外の仕事でも
 家の中の仕事でも
 私は怠けることもなく
 働いていましたが
 そうしていたところ、私は妊娠して
 とても私の夫は
 それを喜んで
 それからは、私が何かすることも
 嫌がり、薪取りさえも

ソモキノ チセオンナイタ	
somo ki no cise onnay ta	せずに家の中で
スケネヤ ケメイキネヤ パテッ	
suke ne ya kemeyki ne ya patek	料理と針仕事ばかりを
アキコロ アナン アイネ ラポッケ	
a=ki kor an=an ayne rapokke	私はしていたところ
ヌワッアソ ルウェネアタス	
nuwap=an ruwe ne akusu	私が出産すると
ピッカ オッカヨ ポイソソ	
pirka okkayo poyson	可愛い赤ちゃんが
アコロワ オロワノボヘネ	
a=kor wa orowano po hene	生まれて、それからなおさら
アヘコテニッパ エヤイコブソテッワ	
a=hekote nispa eyaykopuntek wa	私の夫は喜んで
アコロポイソソ オマッネヤ	
a=kor poyson omap ne ya	赤ちゃんを可愛がるとか
イ、イヨマッ イエヤムネヤ キワ	
iomap i=eyam ne ya ki wa	赤ちゃんを私に大事にさせるとかして
ネッカ アカラカ	
nep ka a=kar ka	何も私がすることも
ソモキノ ウソ、オ、アナン アイネ	
somo ki no an=an ayne	ないでいたがとうとう
タネ エ、エキムネアソ ヤッカ	
tane ekimne=an yakka	今、山へ行っても
ピッカ パッソ ネ ヒケカ	
pirka pakno ne hike ka	よいぐらいになっても
ネッカ ソイ、ソイタ ネッキ アナッネ	
nep ka soy ta nepki anakne	何も外で仕事というものは
アキカ アエラミッカリソ	
a=ki ka a=eramiskari no	したこともなく
アナンペ ネアコロカ	
an=an pe ne a korka	いたのですが
エイタサ ソイタ ネッキ	
eytasa soy ta nepki	とても外で仕事を

アキルスイ ヒクス シネアンタ	
a=ki rusuy hi kusu sine an ta	したくなったので、ある日
アコロ ポイソン アカイ カネヒネ オラ	
a=kor poyson a=kay kane hine ora	私は赤ちゃんを背負って
トゥレットタ ヘネ アキルスイ クス	
turepta hene a=ki rusuy kusu	ウバユリ掘りでもしたいので
トゥレットタ、コ、コ、エキムネ アキヒネ	
tureptakoekimne a=ki hine	ウバユリ掘りのため、山へ行って
キムタ アラバアン ルウェネアクス	
kim ta arpa=an ruwe ne akusu	山に私は行きますと
ポロ ケナッ アン ヒネ	
poro kenas an hine	大きな木原があって
ネ ケナッオッタ エアキシンネ	
ne kenas or ta earkinne	その木原にとても
トゥレットトイ ピリカ トゥレットトイ	
turep toy, pirka turep toy	素晴らしいウバユリの群生地が
アン ヒクス トウレツ	
an hi kusu turep	あったのでウバユリを
アタア アタア ヒネ、エ、	
a=ta a a=ta a hine	私は採って採って
フムネ、フムネアンタ、ア、アルラ ヒネ オラ	
humneanta a=rura hine ora	一ヶ所に集めてから
アコロポイソン シリカタ	
a=kor poyson sirka ta	赤ちゃんを地面に
ア ホッケレ ヒネ サマタ	
a=hotkere hine sama ta	寝かせたそばで
ネッキアンコロ アナン	
nepki=an kor an=an	働いていた
ネ トウレツエトウ アチャコロ アナンアイネ、エ、 ⁽⁴¹⁾	
ne turep etu a=ca kor an=an ayne	そのウバユリの根を切っていたあげく
コロ オラ シノツチャキカ アキカ	
kor ora sinotcaki ka a=ki ka	それから、歌ったことも私は
アエラミツカリ チセオッタ パテッ	
a=eramiskari cise or ta patek	したこともなく家の中ばかりで

アナンペ ネッ、ネヒクス	
an=an pe ne k,, ne hi kusu	私がいたので、ことなので
シノッチャボカ アキカ	
sinotca poka a=ki ka	歌ったことさえも
アエラミッカリッネアヒクス	
a=eramiskari p ne a hi kusu	なかったものだったので
トゥレツエトゥ アチャコロ	
turep etu a=ca kor	ウバユリの根を切りながら
シノッチャキアン コロ アナン アイネ、エエ、	
sinotcaki=an kor an=an ayne ee,,	歌いながらいたあげく、、、
ヤイカタ アイエ シノッチャネ コロカ	
yaykata a=ye sinotca ne korka	自分で口ずさんだ歌でしたが
エアラキンネ アイエフミ ピリカワ ア、	
earkinne a=ye humi pirka wa	とっても歌った感じが良くて
アエキロロアン ワ オロワノ	
a=ekiroroan wa orowano	おもしろいので
シノッチャキ アナアナ	
sinotcaki=an a an a	歌いに歌い続けた
シノッ、コロ アナンオラ	
sinot kor an=an ora	歌、いながらいて
ネ シノッ、シノッチャマウ ウ、 ⁽⁴²⁾	
ne sinot, sinotca maw,,	その歌の響きが
ネ ケナッパウン ケナッケウン ウ、	
ne kenaspa un kenaske un	その木原の上手へ木原の下手へ
シノッチャマウ アッ ヒ	
sinotca maw as hi	歌声の響くこと
ポヘネ アエキロロアンワ	
po hene a=ekiroroan wa	なおさら、おもしろくて
シノッチャキアンコロ ネ トゥレツ ア、エトゥ	
sinotcaki=an kor ne turep etu	歌いながら、そのウバユリの根を
アチャコロ アナン ルウエネアッ	
a=ca kor an=an ruwe ne a p	切りながらいたのだったが
エクシコンナ ポロ ベレ、ペウ、ペウレツ	
ekuskonna poro pewrep	突然、大きな若い熊の

オロペレレ エッ ヒネ オラ アエキマテッ
 orperere ek hine ora a=ekimatek 唸り声が聞こえて??私は驚き
 ア、アイェコロ アナン シノッチャカ ア、
 a, a=ye kor an=an sinotca ka 歌っていた歌も
 アイェ オイラ アコロ、エネ アオマッア
 a=ye oyra a=kor,, ene a=omap a 忘れて、あのよう可愛がった
 アコロポイソンカ アオイラワ
 a=kor poyson ka a=oyra wa 赤ちゃんも忘れて
 ナニ アラキラネ ア、エカニネ
 nani arkirane ek=an hine すぐに慌てて逃げて来て
 アウニタ シレパアン コロ
 a=uni ta sirepa=an kor 自分の家に着くと
 エアシリ アコロ ポイソン アホッパワ
 easir a=kor poyson a=hoppa wa はじめて赤ちゃんを残して
 エカン ヒ ア、アエキマテッ ヒネ オラ
 ek=an hi a=ekimatek hine ora 来たことに(気づき)驚いて
 パラバラッアン コロ アナン ルウェネアクス
 paraparak=an kor an=an ruwe ne akusu 大声で泣きながらいたのだった、すると
 オロタ アコンニッパ イワッヒネ オラ ア
 oro ta a=kor nispa iwak hine ora そこに夫が帰って来て
 マッネワ ネヤ
 ”mak ne wa ne ya” 「どうしたのだ」(と)
 イコウエペケンヌ クス タッネカネ
 i=kouepekennu kusu tapne kane 私に尋ねたので次のように言った
 エイタサ ミシムアン ヒクス ウ、、
 ”eytasa mismu=an hi kusu,, 「あんまり退屈だったので
 トウレツタコエキムネアン ルウェネアッ オラ、ア、
 tureptakoekimne=an ruwe ne a p ora ウバユリ採りのため山へ行ったですが
 アホッケレ ポイソン ア、アホッケレヒネ
 a=hotkere, poyson a=hotkere hine 寝かせ、赤ちゃんを寝かせて
 サマタ トウレツエトウ アチャコロ アナン
 sama ta turep etu a=ca kor an=an そばでウバユリの根を切っていた
 アボ、、イエンカッケウン ポロ カムイ
 a=pok,, i=enkaske un poro kamuy 私の、、私の上の方で大きな熊の

オロペレレ ヒ、イ、アエキマテッ ワ	
orperere hi a=ekimatek wa	唸り声に私は驚いて
アッキラネ キラアンヒ オラ	
arkirane kira=an hi ora	慌てて逃げて
アコロソンカ アオイラ ヒネ	
a=kor son ka a=oyra hine	赤ちゃんも忘れて
アホッパワ イワカン ルウエネ セコロ	
a=hoppa wa, iwak=an ruwe ne" sekor	帰って来たのです」と
ハウエアナン ルウエネア	
hawean=an ruwe ne a	私が言った
アクス オロワノ アコンニッパ	
akusu orowano a=kor nispa	すると、私の夫は
イヨクンヌレ ヘネヤ キコロ オラ	
iyokunnure he ne ya ki kor ora	あきれかえってから
カムイ オルン アスラニ ア、、	
kamuy or un asurani	神に危急を伝えた
アノミカムイ イエラムポキウエンワ	
"a=nomi kamuy i=erampokiwen wa	「私の祈る神よ、私を哀れんで
エネ アオマッ コロ アナン ア アコロソン	
ene a=omap kor an=an a a=kor son	あのように可愛がっていた赤ん坊を
キムタ アマチ カイワ アッパヒネ エ、	
kim ta a=maci kay wa arpa hine	山に妻が背負って行って
ネッキコロ アン ラポッケ キムンカムイ	
nepki kor an rapokke kim un kamuy	仕事をしていたところへ山の神が
ペレレ、、オロペレレワ ネワアンベ	
perer,, orperere wa ne wa an pe	声を、唸り声を上げたことに
エキマテッワ ポイソンカ ホッパワ	
ekimatek wa poyson ka hoppa wa	驚いて赤ん坊も残して
イワッ ルウエネクス	
iwak ruwe ne kusu	帰ってきたので
ネウンカ アンベ アン ヤクン	
neun ka an pe an yakun	何かあったならば
ネ オロペレレ カムイ、イ、、カムイ	
ne orperere kamuy,, kamuy	その声を上げた熊を、、

カムイオロワ アウエンバカシヌ ウ、クニネ
 kamuy or wa a=wenpakasnu kuni ne” 神から懲らしめられるべきです」
 セコロ アンペ アワ、、
 sekor an pe,, ということをし、
 アコンニッパ ハウエアンコロ
 a=kor nispa hawean kor 私の夫が言いながら
 ノミ カムイウタラ カムイ エピッタ
 nomi kamuy utar kamuy epitta 祭る神々の全てに
 ヤイアスラニ コロ オカアン
 yayasurani kor oka=an 緊急事態を伝えていた
 アネピッタ キコロ オカアン アイネ
 anepitta ki kor oka=an ayne 夜どおし祈っていると
 シ、、ネ ニジャッタ クネイワ シットムペケレ
 ne nisatta kuneywa sittumpeker 朝になり、夜が明けて
 ナニ オラ ウトゥラアンバ ヒネ、ネ
 nani ora utura=an pa,, hine ne,,⁽⁴³⁾ すぐ、それから連れだつて
 エキムネアン ルウエネアクス
 ekimne=an ruwe ne akusu 山へ行くと
 ネ トウレツ アチャコロ ハ、アナン ア、、
 ne turep a=ca kor an=an トウレツを切っていた
 カットゥイマノ バイエアンヒネ
 kattuyma no paye=an hine 少し離れて行って
 インカラン ルウエネアクス ネア アコロソン、オ、、
 inkar=an ruwe ne akusu nea a=kor son 見たなら、あの赤ちゃんに
 ネ カムイ カシカム ヒネ アンシリキ ワ
 ne kamuy kasi kamu hine an siriki wa 熊が覆い被さっている様子があつて
 オロワノボヘネ アエキマテツコロ
 orowano po hene a=ekimatek kor それから、驚きながら
 バイエアン ウ、、ネ ウ、ネ、、
 paye=an hine??., u,, ne, u, ne,, 行って、、
 カランケ バイエアン ルウエネアクス
 karanke paye=an ruwe ne akusu その近くへ行くと
 ネアカムイ ギ、、アプンノ ネ アコロポイソン オ、
 nea kamuy apunno ne a=kor poyson その熊が穏やかに赤ちゃんの

カシカム ヒネ ア、アナン、、アン アッ
 kasi kamu hine an=an,, an a p 上に多い被さっていたのだったが
 ホブニヒネ エ、エキムン シキルヒ オッ
 hopuni hine ekimun sikiru hi os 起き上がって山へ向かった後を
 アコンニッパ チョッチャ ルウェネアクス
 a=kor nispa cotca ruwe ne akusu 夫は(矢を)射ると
 ハンケノ アッパヒネ
 hankeno arpa hine 少し離れて行って
 スマウネ ルウェネヒネ オラ、ア、
 sumawne ruwe ne hine ora 獲物になったあと、それから
 インカラン ルウェネアクス
 inkar=an ruwe ne akusu 見ると、
 ネア アコポイソン アブノ アン ヒネ
 nea a=kor poyson apunno an hine あの赤ちゃんは無事で
 オラ ナニ ア、アウッテッ
 ora nani a=uk tek すぐに私は抱き上げ
 アウブソロオマレテッ ヒネ オロワノ、、
 a=upusoromare tek hine orowano 私の懐にさっと入れて
 イワカンヒネ カムイ オルンカ オラ
 iwak=an hine kamuy or un ka ora 帰って、、熊の方にも
 アコンニッパ コオンカミテキネ
 a=kor nispa koonkami tek hine 夫が礼拝して
 オロワノ イワカニネ
 orowano iwak=an hine,, それから帰って
 コ、、アナン ルウェネアクス
 kor,, an=an ruwe ne akusu いると
 ネア エアンチカリ ウ、アコンニッパ
 nea eancikari a=kor nispa その夜、私の夫が
 ウェンタラッアン ルウェネヤッイエヒ
 wentarap=an ruwe ne yak ye hi 「夢を見た」と言ったことは
 エ、、エネハウェアニ、イ、、
 ene hawean hi 次のようであった
 ヌプリコロ カムイ ポホ アネヒネ
 ”nupuri kor kamuy poho a=ne hine 「山の神の子供が私であって

ネナカ ウェンプリ アコロワ アア、、
 nep ka wen puri a=kor wa 何も悪い気持ちを持って、、
 アツカサン ヒカ ソモネ
 apkas=an hi ka somo ne 歩いていたのでない
 ネ ケナッオッタ ア、ヤヤツカッテ アンコロ
 ne kenas or ta yayapkaste=an kor 木原を散歩しながら
 アナンルウェネアクス
 an=an ruwe ne akusu いたところ
 エマチヒ シノッチャキ、、ヒ
 e=macihi sinotcaki,, hi お前の妻の歌が
 エアッキンネ アエキロロアン ヒネ
 earkinne a=ekiroroan hine とても面白くて
 シノッチャ、ア、、ケナツケ、パウソ ウ、
 sinotca kenaske, pa un u,⁽⁴⁴⁾ 歌が木原の下手へ
 ケナツパ ウソ シノッチャハウ、ウ、
 kenaspa un sinotca haw 木原の上手へ歌声が、、
 アエキロロアン ワ エイタサ、ア、
 a=ekiroroan wa eytasa 面白くて、あまり、、
 サマタ ア、エカンワ アナン ヤクソ
 sama ta ek=an wa an=an yakun そばに来て、いたら
 イ、イエキマテク クニ アラム ヒクス
 i=ekimatek kuni a=ramu hi kusu 私に驚くだろうと思ったので
 ニムアンヒネ ニカタ
 nimu=an hine ni ka ta 木に登って木の上で
 ネ シノッチャ アヌコロ
 ne sinotca a=nu kor その歌を聞きながら
 アナン ア コロカ エイタサ
 an=an a korka eytasa いたのだけれどあまりに
 アエキロロアン ヒクス テクウェキッキアン
 a=ekiroroan hi kusu tekuekikkik=an 面白いので拍手をした
 ニカタ テクウェキッキアン コロ オ、
 ni ka ta tekuekikkik=an kor 木の上で私は拍手をしながら
 ミナアン ヒ、ヒネ、ネヒ、、オッペレレアン
 mina=an hine ne hi orperere=an 笑って、その私が唸った声

ヒ アナッネ ミナア、アン ハウエ、ヒ、	
hi anakne mina=an hawe, hi,	は、笑った声であるのを
エコロカッケマツ ア、、エキマテッワ	
e=kor katkemat ekimatek wa	お前の妻は驚いて
アッキラネ エ、イワッ ルウエネアッ	
arkirane iwak ruwe ne a p	慌てふためいて逃げたものだったが
オラ ナニ エコンニッパ イワッアクス ⁽⁴⁵⁾	
ora nani e=kor nispa iwak akusu	すぐにお前が帰ると
オロワノ カムイオルン アスルアニ	
orowano kamuy orun asurani	それから神に危急を伝えた
ネウンカアンペ エネ アコロ テンネッ	
"neun ka an pe ene a=kor tennep	「何とかして、、この私の赤ちゃんに
ネッカ アウ、、アンペ ソネヤクン	
nep ka auu,, an pe sone yakun	何かあるものなら、
カムイウタラ ネヤッカ ア、	
kamuy utar ne yakka	神々であっても
テワノ アノミカ ソモキクスネナ	
tewano a=nomi ka somo ki kusu ne na"	これから私は祭ないぞ」
セコロ アンペ エ、、エコン、、エ、	
sekor an pe e,, e=kor,, e,	ということ、、お、お前の、
エイエコロ カムイエウ、、アスラニ	
e=ye kor kamuy eun asurani	お前が言いながら神に危急を知らせた
ネクス オラ カムイ オロ、オロワ ア、、アエコ、、	
ne kusu ora kamuy oro wa	ので、それから神から
アイコパッロタ ア、ネ ポイソン アブソノ オオ、、	
a=i=kopasrota ne poyson apunno	私がとがめられ「その赤ちゃんを無事に
ネ アイヌ ニッパ エウン	
ne aynu nispa eun	その人間の旦那へ
エルラ ソモキ ヤクン	
e=rura somo ki yakun	運ばなかったなら
アウエンパカッヌ クスネナ セコロ	
a=wenpakasnu kusu ne na sekor	私が罰するつもりだぞ」と
アイイエコロ アイコパッロタ ワ オロワノ	
a=i=ye kor a=i=kopasrota wa orowano	言われて戒められたので

ア、アバルンペ コヌムヌム、ヌムテ ワクス
a=parunpekonumnumte wa kusu 私の舌を吸わせて
カシ アカム ワ アネピッタ
kasi a=kamu wa anepitta その上に被さって夜通し
アバルンペコヌムヌムテ コロ アナン アイネ エ、
a=parunpekonumnumte kor an=an ayne 私の舌を舐めさせていると
エチイコオシコニ ルウェネ エアラキンネ
eci=ikooskoni ruwe ne earkinne お前たちが間にあって本当に
ヤイカタカ ア、ヤヤパプアン ルウェネクス ウ、⁽⁴⁶⁾
yaykata ka yayapapu=an ruwe ne kusu 自分も詫びるので
カムイオルン エ、、イサム エソソコクン、クッテ ワ
kamuy or un i=sam e=sonkokuste wa 神の世界へ、言づてを送って
イコレヤク ピリカナ セコロ
i=kore yak pirka na” sektor くれたらよいぞ」と
アン ウェンタラッ オラ
an wentarap ora いう夢で、それから
ア、アコロマラットカ ア、、コタ、、オルン
a=kor maratto ka kotan or un 「熊の頭を村へ
エチサッテワ イノミカ キワ
eci=sapte wa i=nomi ka ki wa お前が出して、私に祈って
イコレ オラ イサム エソソコクッテカ
i=kore ora i=sam e=sonkokuste ka それから、私に言づても
キワ イコレ ヤク ピリカナ
ki wa i=kore yak pirka na” してくれたらよいぞ」
セコロ アン ウェンタラッ
sekor an wentarap という夢を
アキ ルウェ、ルウェネヤク クネイワ
a=ki ruwe, ruwe ne yak kuneywa 私が見たと、朝
アコンニッパ ハウエアンコロ
a=kor nispa hawean kor 私の夫は言いながら
オラ エアシリ オンカミア オンカミア
ora easir onkami a onkami a それから何度も礼拝し
アコロソソン アエチヨクヌレ エ、、
kor a=kor son a=ecoknure ながら、赤ちゃんに

ルウェネ ヒネ オラ ナニ	
ruwe ne hine ora nani	私は接吻をして、それからすぐ
ネ イシムネ コタンコロウタラ	
ne isimne kotan kor utar	その翌日、村の仲間を
アコンニシパ、 トウラヒネ	
a=kor nispa,, tura hine	私の夫が連れて
ネ カムイ マラット トウラノ	
ne kamuy maratto turano	このように熊の頭を村人と共に
コタン オルン アサンケヒネ	
kotan or un a=sanke hine	村の方へ出して
ピリカマラット ネ エ、アホプニレ オラ	
pirka maratto ne a=hopunire ora	良い賓客として魂送りをして
カムイオルン ネヤッカ	
kamuy or un ne yakka	神のところにも
アコロ ポイソソ アプンノ アンクス	
a=kor poyson apunno an kusu	「私の赤ちゃんが無事だったので
カムイ ウウ、、コ、アッ、コイパッ	
kamuy uu,, ko, a=koypak	熊の神をとがめた
カ、カムイ オピッタ コイパッ ソモキノ	
kamuy utar opitta koypak somo ki no	神々全てが罰しないように
ワ、イコレヤッ ピリカナ セコロ	
wa i=kore yak pirka na" sekor	してください」と
オラ オッスイ アコンニシパ	
ora os suy a=kor nispa	それから後でまた夫が
ヤヤパプ ウ、コロ カムイオルン	
yayapapu kor kamuy or un	謝りながら神に
イノンノイタッ ルウェネヒネ	
inonnoytak ruwe ne hine	祈りの言葉をあげて
オロワノ オカアンヒ アノ、、ネ、	
orowano oka=an hi ANO,, ne,	そうして暮らして、、
ネッカ オロワノポヘネ	
nep ka orowanopo hene	何も、、それからいっそう
アコロソソ アエヤムワ ネッカ	
a=kor son a=eyam wa nep ka	赤ちゃんを大切にしてい何も

アカカ ソモキノ アナン、、 ラポッケ、、	
a=kar ka somo ki no an=an rapokke	私はしないでいた一方で
ネ カムイオロワ、、 アコンニシバ	
ne kamuy or wa a=kor nispa	その（熊の）神から夫が
アエブンキネ ワクス ネ ノイネ	
a=epunkine wa kusu ne noyne	守られているらしくて
ポヘネ イソンネヤ	
po hene ison ne ya	なおいっそう獲物に恵まれるとか
ネッカヲ ヤッカ ネッカ	
nep kar yakka nep ka	何をしてても何も
エチ、 エシツチュウカ ソモキ	
esitciw ka somo ki	（病気などで）倒れることもなく
アコソソソカ イットトウツワ ウ、	
a=kor son ka ittotuk wa	子供もすくすく育って
ピリカ ポイソソネ アンシリ、、 ワ	
pirka poyson ne an siri wa	良い赤ちゃんであって、、
オロワノ ネ ヌブリコロカムイ	
orowano ne nupuri kor kamuy	それから、その山の神が
アツパケタ ア、、 アナツネ	
atpake ta anakne	最初にこそは
アア、 イ、、 イエキマテッって言うん、、	
aa,i,, i=ekimatek TTE IUN,,	私を驚かせ、、
アエキマテッ ハウ、カムイハウアニ	
a=ekimatek haw, kamuy hawan hi	私が驚いた声、熊の声に
キマテッ アンペネア コロカ ア、オロワノ	
kimatek an pe ne a korka orowano	驚いたものだけれど、それから
イエブンキネワ ネットニ アラムノ	
i=epunkine wa ne kuni a=ramu no	私たちを守ってくれているように思い
シノニシバ シアスルアツテニシバ	
sino nispa siasuraste nispa	とても名をとどろかせる長者に
アネヒネ オカアン アイネ	
a=ne hine oka=an ayne	私たちがなって暮らしたあげく
アコソソソカ ポロ ワ、、	
a=kor son ka poro wa,,	私の子供も成長して

ユッカ カムイカ エアウナルラ ヤッカ
yuk ka kamuy ka eawnarura yakka 鹿も熊も運んでも
ポロ ヤッカ ネ ヌプリコロカムイ
poro yakka, ne nupuri kor kamuy 大きくなっても、その山の神を
ネイパクノ ノミ ヤッ ピリカナ セコロ
ney pakno nomi yak pirka na sekor いつまでも祭るのだぞ」と
ピリカノ アコイタムイエコロ
pirka no a=koytakmuye kor よく言い聞かせて
オンネアンペネアクス アイエ セコロ
onne=an an pe ne akusu a=ye sekor 死んだのだと言って
シネ メノコ イソイタッ セコンネ
sine menoko isoytak sekor ne. 一人の女が語りました、と。

5. 註

- (1) 語り手は、物語のひとつひとつに固定した呼び名を持っていないので、物語の主人公を表す標題を報告者が付けた。
- (2) ここは夫である男のセリフなので、アホクファン a=hokuhu an「私の夫がいる」というのは言い誤りと思われる。
- (3) 小川氏によると、チャナン オッカイボ canan okaypo とは「背の低い人」の意味であり、「体格が小さく、力もないので餌があまりできずに貧乏な生活をしている」という。「チャナン」と聞こえるのだが、語り手本人は「チャナン」ではなく「チャナン」と言うつもりだったという。
- (4) ピリカプクサ pirka pukusa をそのまま訳せば「良い行者にんにく」であるが、小川氏も上田氏も「干したのではなく、新鮮な行者にんにくのこと」であるという。
- (5) 小川氏によると、サカンケ sakankeとは「肉や魚を、火棚に置いて干したり、日干しにすることである。肉の場合はゆでてから干すが、魚は腹を割いて焼いたのを火棚に下げておく。「干す前の準備として、肉の場合はゆでて魚の場合は焼く。ゆでたものだけがサカンケではない」とも言う。火棚に置いたために付着した煤やほこりを、お湯でフライエ huraye「～を洗う」するために再びゆでるといふ。再びお湯で洗う行為が必要なのは、長期間置かれていたものだけであり、煤などが付着していなければそのままおゆに入れることもある。
- (6) 「いっしょけんべ」は「一生懸命」のことである。本報告には他に3ヶ所あり、「いっしょけん」と発音されている。小野米一(1993)『アイヌ語話者の日本語北海道方言についての研究』「葛野辰次郎氏 談話資料」を見ると、静内町のアイヌ語話者である葛野氏は「一生懸命」と言うところ7ヶ所に「いっしょけんべ」、1ヶ所に「いっしょけんめー」と発音している。
- (7) エキムネナン ekimne=an an??「私が山へ行く」に付いている後続のアン an の意味は不明。

- (8) 女がむしり取っているのは陰毛である。物語った後、小川氏はオリセリセ o-rise-rise「陰毛・をむしり取る(単数形)」やオリセオリセ orise orise という表現をした。
- (9) 女神に気づかれないように「わざと衣服に土を付けて汚してから家に入った」という。
- (10) 小川氏によると、スケ suke「料理する」という言葉を言い直した時、日本語の「まゝ」が入ったという。
- (11) アカヲモシリ a=kar mosirというつもりだった。意味は「神様が作った新しい人間世界」であり、行者にんにくの食べ方を人間に教えるために、神自身が天から降りてきた。この神をブクサカムイ pukusa kamuy やブクサオヤカタ pukusa OYAKATA(親方)という表現もする。
- (12) 小川氏が「世界中」と表現する場合の、モシリ エピッタ mosir epitta、モシリイキリ mosir ikiri、モシリ オケレ mosir okere の三つの表現をする。「世界中とは海の向こうも天の世界もいっしょ。」という。
- (13) 「アイヌにヤイカラ」の「に」は、ネ ne「として、に」ということかもしれない。上田氏の場合も別の物語の中で、セタにヤイカラ seta NI yaykar「犬に化ける」と言うことがある。しかし、ゆっくり発音してもらおうとセタ ネ ヤイカラ seta ne yaykar「犬に化ける」となる。なお、上田氏によれば、ヤイカラ yaykar「化ける」というのはその動物の形だけでなく、鳴き声を真似したときにも用いる。例えば、セタ ハウ ネ ヤイカラ seta haw ne yaykar「犬・声・に・化ける」とかホロケウ ウォセネ ヤイカラ horkew wose ne yaykar「狼・遠吠え・に・化ける」という。
- (14) イウォロルン iwor or un は、松島氏によると「沢の方」のことである。
- (15) 小川氏によると、女が出ていった窓は上座の窓ではなくポロプヤラ poro-puyar「大きい・窓(左側の側にある窓)」だという。
- (16) 小川氏は「窓から覗き見することはどうしょうもない人間のすることだから、ブクサトノを怒らせてしまった」という。
- (17) 小川氏によると、イヌクリ inukuri「何もできない」というつもりであったという。
- (18) 小川氏によると、口演時間が40分ぐらいであれば、タッネ ウエベケレ takne uepeker とか一尺ウエベケレ ISSYAKU uepeker と穂別町仁和に暮らしていた年寄りたちが言っていたという。「口演時間が1時間ぐらいのウエベケレをタッネ ウエベケレと呼ぶことができるか」と質問すると、迷って即答しなかったが、「昔はウエベケレを1時間半も2時間もやってた」のが普通という。松島トミも30分ぐらいのウエベケレには、タッネウエベケレと呼称する。
- (19) 語り始めの誤りに気づいて、次の行から言い直す。
- (20) レッ rep と聞こえるところは、ネッ nep「何」というつもりだったと思う。
- (21) 妻が家の中の仕事で右へ左へと動き回ると、夫もその方向へ目で追いかける様子。
- (22) 小川氏によると、トゥレツラハ turep raha「ウバユリの葉」の意味である。食べられる葉もそうでない葉も意味する。同じ意味でトゥレツクキラハ turep KUKI raha という表現も出てきたがクキ KUKI は日本語のようである。ラハ自体に茎を含めた意味があるという。日常生活では、ダイコンラハサッケ DAIKON raha satke「大根の葉を干せ」と用いた。ブクサラハ pukusa raha「行者にんにくの葉」と

は言えない。kina キナ「野草」に対しては用いないと言い、樹木以外の植物で根の部分と茎、蔓、葉を分断して利用するような形態の植物に対してラハという。「葉」を意味するとして、ハム ham-u, hu や ムン mun という単語もあるが使い分けについて検討が必要である。

- (23) だれから DAREKARA は「で、あれから」という意味で発した言葉と思われる。他の箇所では「で」が抜けて「あれから」と聞こえる。
- (24) 小川氏によると、トゥンプオマレ tunpu omare は「親元の先祖の世界へ送るために家の中に入れること」という。
- (25) 小川氏によると、エシヌマ esinuma は言い誤りである。
- (26) 母親が熊に驚いて逃げ出した場面が抜け落ちて、すぐに赤ちゃんの話になったと思われる。
- (27) 小川氏によると、人間からの土産を熊の子供が自分で担いで持って帰ったという。
- (28) 小川氏によると、親熊が子供を叱った理由は親熊に知らせずに勝手に人間世界へ行ったからである。
- (29) 親熊が小熊に対して、「人間に対して悪いことをしたなら、熊は土産を持って帰って来れない」ことを論じている。
- (30) アオナハ a=onaha「私の父」とあるため、山に置き忘れられた赤ちゃんが成長して、子供の語りが変わる。次の一行は親の語りになるが、すぐに子供の語りに戻って語り続けられる。
- (31) ユッカムイ yuk kamuy と聞こえるのは、「鹿の神」ではなく、「鹿と熊」の意味であろう。
- (32) 小川氏の語りは「夫婦で暮らしている頼りない男」という設定で始まるが、上田氏の語りは、最初から「一人暮らしの男」という設定で始まる。
- (33) 上田氏によると、ルウェネアクス ruwe ne akusu「ことであると」というつもりだったという。
- (34) クラムと聞こえるが、文脈上コロカ korka であると思われる。
- (35) 松島氏によると、ライチンテヤヤ ray cinteyaya はポロマササ poro masasa「大きく・(股を)広げる」と同じ意味である。ポロマササは股を広げている場合にしか用いない言葉である。「目を大きく開く」のは、シクマササ sik masasa であるという。
- (36) 上田氏によると、ヤヨリッパリッパ yay-o-rispa-rispa「自身・の陰毛・をむしり取る(複数形)」と言うつもりであった。
- (37) エネアニ ene an hi「このように・ある・こと」であると思われるが、適切な日本語訳が思い当たらないので文意を汲み取って訳した。
- (38) イアンヌアッテ iannuaste「覗き見する」という意味の1項動詞である。
- (39) アエコオヨイセ a=e=kooyoyse「私・お前・～が～を欲しい」。上田氏が用例として、クワッ アコオヨイセ コロカ ケ カ エアイカッ kuwas a=kooyoyse korka k=e ka eaykap「お菓子を食べていけれども私は食べられない」と言い、松島氏が示した用例はピッカメノコ アコオヨイセ pirka meno-ko a=kooyoyse「美しい女を私は欲しい」であった。
- (40) メノコ menoko「娘」というべきところをオッカイポ okaypo「青年」と言ってしまった言い誤り。
- (41) ウバユリのどこを切っているのかを両者に確認すると、小川氏はトゥレラハ turep raha「ウバユリ

の葉」と言って「根と葉の付け根」を示す。上田氏は同じ部位をトゥレツエトゥ *turep etu* 「ウバユリの先」と表現した。根の先端部のアイヌ語について、小川氏はトゥレツエトゥと言ひ、上田氏は、トゥレツ オソロホ アネウシケ エトゥ *turep osoroho ane uske etu* 「ウバユリのお尻の細いところの先」と表現した。

- (42) 上田氏のシノッチャマウ *sinotca maw* 「歌の響き」という表現を小川氏は聞いたことがなく、ポロシノッチャハウ *poro sinotca haw* 「大きな歌声」と表現する。
- (43) 上田氏によると、ウトウラアン ヒネ パイエアン *utura=an hine paye=an* と言うつもりだったという。
- (44) 上田氏によると、ケナッケシ ウン *kenaskes un* 「木原の下手へ」と言うつもりだった。
- (45) 熊が夫に対して話している箇所だが、「だんな」に対してエコンニシバ *e=kor nispa* 「お前のだんな」と言ってしまった。
- (46) 上田氏はこの行をアエヤイコブンテタ *a=eyaykopuntek* 「私はそのことがうれしい」でもいいという。